

令和5年11月2日

たいけん美じゅつ場 VIVA（アトレ取手4階・JR取手駅直結）にて

第二回ヤギの目ビエンナーレ「もしも私がヤギならば」開催 ～“ヤギの飼育”から生まれる芸術～



「現代アートとは、新しい価値観を作り、他者の心や未来に捧げ続けることだ。
それを実現させるためにはヤギの手でも、脳でも、心さえも借りてくればいい。」

東京藝術大学「ヤギの目」プロジェクトは、2023年11月19日（日）から11月26日（日）に、
第二回ヤギの目ビエンナーレ「もしも私がヤギならば」を開催いたします。



TOKYO GEIDAI



NEXT SDGs

本学ではコロナ禍ただ中の2020年12月から、東京藝術大学取手校地でヤギを飼い始め、2023年11月現在は、三頭のヤギと多様な主体が参画する「透明なアーツセンター」を運営しています。

「透明なアーツセンター」の中心となる「ヤギの目」のメンバーは東京藝術大学の学生や教員、取手市内のアートNPO、取手市民有志らが中心です。活動は日々のヤギの飼育を基本に置き、とても緩やかなものですが、飼育からそれぞれが着想して様々なことに取り組んでいます。その場限りの思いつきもあれば、いつの間にか休止中のものも少なくありませんが、それらの試みはあるがままでよく、ここで生まれるコミュニケーションは共生社会に生きる実践的トレーニングでもあり、そこで個々人が得たものをそれぞれ別のコミュニティに持ち帰ることで「透明なアーツセンター」は拡張すると考えます。活動を通して発想した新しいアート活動が生まれる期待を強くもつ本活動は、多様な主体の共創を礎にした芸術の未知の可能性に向けた探求でもあります。

本展では、2021年9月に開催した第一回展以降の約2年の活動と時間の蓄積を経て生まれた作品と日々の活動を前回展の約2倍の規模で広く展示します。

【展覧会概要】

名称：第二回ヤギの目ビエンナーレ「もしも私がヤギならば」

会期：2023年11月19日（日）～ 11月26日（日）10:00～20:00

会場：たいけん美じゅつ場 VIVA とりでアートギャラリー・VIVAパーク

休館日：会期中無休（アトレ取手の営業日に準じる）

観覧料：無料（予約不要）

※ ただし今後の状況により時間等の変更や入場制限を実施する可能性があります。

内容：（1）ヤギの目に所属し活動するアーティストによる作品展示

出展者：

小沢剛	藺部秀徳	INHO	大野開	上川桂南恵
上條信志	川原圭汰	倉科明尚	後藤理菜	徐美玉
鈴木希果	ちえんしげ	中川陽介	中山莉瑠	鄙里沙織



TOKYO GEIDAI



NEXT SDGs

南昂希 呂奕レイ PJJJ (田中john 直人、若山萌恵、荒川弘憲)
ヤギの目前橋/NPO 法人麦わらや 他ヤギの目に関わるメンバー

(2) ヤギの目に関わる人々の各方面における活動紹介 (“部活動” とプロジェクト軸)

(3) トークイベント「ヤギの目で世界を捉え直す」

日時：2023 年11 月19 日 (日) 17:00-18:30 予約不要・先着順

会場：たいけん美じゅつ場VIVA・VIVA パーク

登壇者：小沢剛 (美術家/東京藝術大学美術学部 先端芸術表現科 教授)

清水知子 (文化理論・メディア文化論/東京藝術大学大学院

国際芸術創造研究科准教授) 他 ゲストプレゼンターを予定

監修：小沢剛 (美術家/東京藝術大学美術学部 先端芸術表現科 教授)

共催：東京藝術大学「ヤギの目」プロジェクト

東京藝術大学 共生社会をつくるアートコミュニケーション共創拠点※

取手アートプロジェクト《半農半芸》

Webサイト等

[Instagram] @yagi_nome [YouTube] ヤギの目 *ヤギの柵を常時ライブ中継中！

[Website] <https://yaginome.geidai.ac.jp>

取材について

会期中の取材も承っておりますので、ご希望の方は下記お問合せ先までご連絡ください。

展覧会広報宣材・ヤギの目の普段の活動の様子、ヤギたちの様子などのデータ提供も可能です。

問合せ先

●「ヤギの目」プロジェクト

Instagram (https://www.instagram.com/yagi_nome/)へダイレクトメッセージ

●取手アートプロジェクト

Mail: tap-info@toride-ap.gr.jp Tel: 0297-84-1874 (平日10:00-17:00受付)

「ヤギの目」プロジェクト メンバー

・ヤギの目代表

小沢 剛（おざわ・つよし） 本展覧会監修・出展

URL = <https://www.ozawatsuyoshi.net/>

美術家・東京藝術大学先端芸術表現科教授

1965年東京生まれ、埼玉在住。東京藝術大学在学中から、風景の中に自作の地蔵を建立し、写真に収める《地蔵建立》開始。93年から牛乳箱を用いた超小型移動式ギャラリー《なすび画廊》や《相談芸術》を開始。99年には日本美術史の名作を醤油でリメイクした《醤油画資料館》を制作。2001年より女性が野菜で出来た武器を持つポートレート写真のシリーズ《ベジタブル・ウェポン》を制作。2004年に個展「同時に答えろYesとNo!」（森美術館）、09年に個展「透明ランナーは走りつづける」（広島市現代美術館）、18年に個展「不完全—パラレルな美術史」（千葉市美術館）を開催。13年には「光のない。（プロローグ?）」（作：エルフリーデ・イエリネク）において、初めて舞台演出、美術を手がける。13年より、歴史上の実在する人物を題材に、事実とフィクションを重ね合わせ、物語を構築する「帰って来た」シリーズを制作。第69回芸術選奨文部科学大臣賞受賞（2019年）。

・メンバー

ムギ・エヒメ・タンポポ

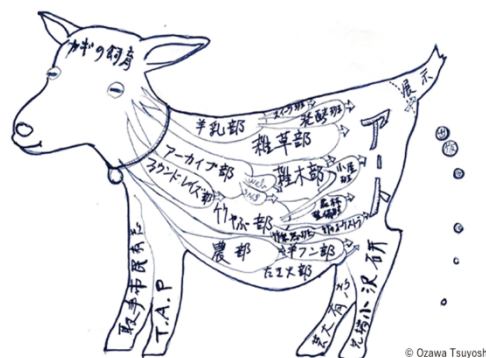
東京藝術大学先端芸術表現科小沢剛研究室

藝大学生教員有志

地域住民有志

取手アートプロジェクト《半農半芸》

共生社会をつくるアートコミュニケーション共創拠点



・協力

キングラン株式会社・アトレ取手・取手市・中川ケミカル・モリヤ洋品店

・飼育指導・サポート

安江健（茨城大学農学部食生命科学科教授・家畜行動学）・

峯苔稔三（獣医師・ミネ・アニマルクリニック）

なお、本展覧会は2023年11月10日（金）-11月26日（日）に開催される東京藝術大学「芸術未来研究場展」と連動した企画となっております。

<取手アートプロジェクト《半農半芸》>

取手アートプロジェクト（TAP=Toride Art Project）は、1999年より市民と取手市、東京芸術大学の三者が共同でおこなっているアートプロジェクトです。通年型で取り組む郊外ならではのアートプロジェクトとして《半農半芸》が「10年かけて旅する」を掲げ2011年にスタート、自然の要素を表現の軸に据えたアーティストや地域の方々、専門家たちとともに生きることをめぐる新しい価値を創る試みに取り組む過程で、ヤギの目に参画しています。

ディレクター：岩間賢（美術家・東京藝術大学油画専攻（壁画）准教授）

<共生社会をつくるアートコミュニケーション共創拠点>

2030年には国民の3人に1人が65歳以上となる超高齢社会における、望まない孤独や社会的孤立の解決策として、本拠点では「文化的処方」を提案しています。東京藝術大学を中核として、アート、福祉・医療、テクノロジー等の専門機関や企業、自治体を含む38機関が、社会課題解決のための知識や技術を持ち寄り、「文化的処方」を開発し、地域社会に実装することで、誰もが生涯を通じて社会参加でき、幸福で健康的な生活を送り続けることのできる社会の共創を目指しています。<https://kyoso.geidai.ac.jp/>

※「共生社会をつくるアートコミュニケーション共創拠点」は、科学技術振興機構（JST）共創の場形成支援プログラム（CIO-NEXT）に採択されて東京藝術大学が代表機関として推進しているプロジェクトです。<https://toride-ap.gr.jp/>

<科学技術振興機構（JST）共創の場形成支援プログラム（COI-NEXT）>

共創の場形成支援プログラムは、大学等が中心となって未来のありたい社会像（拠点ビジョン）を策定し、その実現に向けた研究開発を推進するとともに、プロジェクト終了後も、持続的に成果を創出する自立した産学官共創拠点の形成を目指す産学連携プログラムです。JSTの既存の拠点形成型プログラムの1つである、センター・オブ・イノベーション（COI）プログラムがコンセプトとして掲げる「ビジョン主導・バックキャスト型研究開発」を基軸とした制度設計を行ったことから、本プログラムの愛称を「COI-NEXT」としています。

